

講演 1

生涯にわたる脳の健康を目指して

水澤 英洋 (みずさわ ひでひろ)

東京医科歯科大学 特任教授・名誉教授



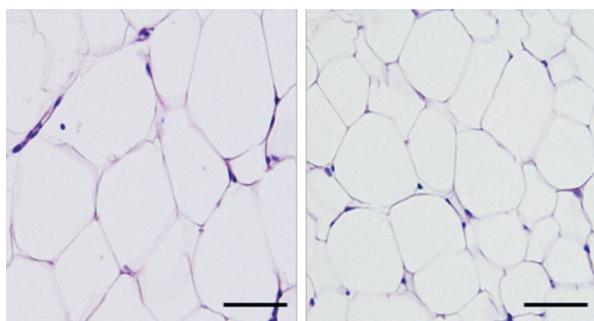
略歴 1976年 東京大学 卒業。1982年 東京大学神経内科 助手。1984年 筑波大学神経内科 講師。1990年 同 助教授。1996年 東京医科歯科大学神経内科 教授。2014年より現職。(本務:国立精神・神経医療研究センター 理事・病院長)

ポイント!

- 現代社会は脳の健康が損なわれる病気が多く、脳と心の健康が大切です。
- 遺伝病のみならず孤発性疾患にも、遺伝子が関与しています。
- 孤発性疾患にも、食・生活習慣など環境因子が大きく関与しています。

現代社会は、発達障害、うつ病、睡眠障害、認知症など脳の健康が損なわれる病気が多く、言い換えれば、脳と心の健康が極めて大切な時代と言えます。多くの病気は、生来備わった遺伝的内因と後天的な環境性外因との相互作用で発症すると考えられます。課題E(生涯健康脳)では、健やかな育ち、活力ある暮らし、元気な老いを目指し、胎児期から老年期に至るまでの生涯にわたる脳と心の健康に関係する遺伝的内因と環境性外因、特に食・生活習慣並びにそれらの相互作用を研究しています。その結果、母子分離などの環境ストレスが過食や肥満に

関係し、特有の食事の傾向や肥満がうつ病や睡眠障害と関連していることが判明し、その分子機構についても分かりつつあります。また、うつ病や糖尿病あるいは酸化ストレスなどはアルツハイマー病などの認知症のリスクを高めることや、発症に関わる分子病態についても新しい遺伝子の同定など解明が進んでいます。さらに、発達障害、うつ病、小脳老化・変性などのより定量的な生物学的指標(バイオマーカー)の開発にも成功し、脳と心の健康を目指して、大きな進展が得られました。



コントロール

オキシトシン投与

オキシトシン投与により視床下部を介して脂肪細胞の肥大化が抑制され、肥満が抑制される。
(課題E 参画 自治医科大学・矢田俊彦教授 提供)



メモ